

第3節 ユネスコ本部(パリ)との結びつき

1 発会挨拶状の送付

協力会発足直後の昭和22年7月22日、第1回役員会が次のとおり開かれた。

1. 日時 7月22日(火)午後4時～6時半
2. 場所 東北大学金属材料研究所会議室
3. 参会者 土居光知、桑原武夫、上田康一、安積宏、小谷鶴次、
(同)夫人、榛葉英治、樋口泉、村岡勇、金倉英一、佐藤隼雄
4. 議題 (1) パリ本部宛て挨拶状について
内容、添付資料(声明文、協力会規約、役職員名簿、新聞切抜及びその翻訳)
(2) 事業計画(基金募集、会報「ユネスコ」の発行、事務局の位置—本部：終戦連絡東北事務局、出張所：東北大学文学部国際法研究室(小谷鶴次))

以上のこと等が議決され、挨拶状は、佐武会長名でジュリアン・ハックスリー事務総長宛に英文で送ることが決定された。なお、英文挨拶状の起草は土居副会長が行うこととされた。



ユネスコの事務総長 ジュリアン・

ハックスリー博士(英国の著名な生物学者)

c/o Tohoku University,
Sendai, Japan
20th July, 1947

Dr. Julian Huxley,
Director-General
of the UNESCO Secretariat

Dear Sir,

I beg to inform you of the establishment of the UNESCO Cooperative Association in Sendai, Japan. It has been organized by professors, scientists, educationists, writers and others who enthusiastically wish to cooperate with the UNESCO in realizing its ideals. The Association was first organized in Sendai, a university town in the North of Japan, but, I expect, the movement will soon spread all over the country.

We think that our government will duly form a national commission, when we are to be admitted to the UNESCO, but we see the need of establishing democratic associations to prepare the people forth understanding of UNESCO and its ideals - this as soon as possible.

I enclose herewith the Regulations, the Declaration, a list of some members of the Association and press-cuttings concerning the opening ceremony, wishing to draw your attention to the fact that various kinds of pacifist movements are taking place in Japan. We shall be very grateful if UNESCO recognizes our endeavor, and provides us with any informational publications, which would prove quite valuable for the understanding of UNESCO.

I remain,
Your sincerely,

President of the UNESCO
Cooperative Association,
Sendai, Japan

挨拶状内容は、次のとおりであった。

ユネスコ事務総長

ジュリアン・ハックスレイ殿

日本ユネスコ協力會々長

佐 武 安 太 郎

拜啓

酷暑の砌益々御清適のことと拜察致します。

扱て日本仙臺市にユネスコ協力會が創設せられたことを御通知致したいと思ひます。本會はユネスコの掲げる理想實現に協力したいと熱望する大學の教授、科學者、教育者、文學者その他の人々によつて組織せられました。本會は日本全國に魁けて日本の東北地方の文化の中心地である仙臺市に設立せられたのであります。この運動は國の隅々にまで及ぶであらうと考えられます。

やがて時期が到來すれば、我國もユネスコに参加し、正式にユネスコの國內委員會が我國にも設置されるのであります。それより以前に日本國民がユネスコとるの理想を理解するように準備する爲に民主的な協力會を創設することが必要であり、然かも早ければ早いほど結構であると思われ。本會の規約聲明書、主なる役員表、及び發會式に關する新聞の切抜き等をここに同封して置きました。これによつて日本にも各種の平和運動が起りつつあることをお認めになるたうと思ひます。ユネスコが本會の努力を認められ、ユネスコの理解に役立つ各種の情報資料を御送付願えねば誠に有難く存じます。

敬具

一九四七年八月

(ユネスコ巴里本部宛發會通知全文譯)

ユネスコ協力會の國際的反響

昨年七月十九日初めて仙臺に生まれたユネスコ協力會はその後つぎのような國際的反響を呼んで、日本に芽生えたユネスコの芽を世界がいかに大きな關心をもつて見守つてゐるかを示した。十一月メキシコ市に開かれたユネスコ第二回總會で、一九四八年度よりユネスコは占領軍の諒解の下に、日本に對しても活動を開始すると決議したが、各國代表がこのように日本に對して注目し始めた原因の一つには、日本の民間に起つたユネスコ協力會運動の報道がよき影響を與えたものと信じられる。

ユネスコ協力會仙臺に結成

(ワシントン十一月十三日、U.S.I.S.報道) — ユネスコは最近パリ本部に於て、仙臺の大學からユネスコ協力會結成報告の書信を受つたと發表した。

手紙は同協會長佐武氏よりユネスコ事務總長ジュリアン・ハツクスレー博士宛のものである。佐武氏は同協力會はユネスコに協力しようという熱心なる作家、科學者、教育家等に依り結成されたと述べている。

尙佐武氏は日本のユネスコ参加が許された曉には、日本國內委員會が結成されるであらうが、その日までに、ユネスコとその理想を理解するために、何らかの準備がなされなければならぬと述べている。

これについて、ワシントンのユネスコ關係者は、日本の参加問題はまだ出ていない。若しかゝる申請が提出されたとすれば、それはまづ國際聯合經濟社會理事會の承認を受けなければならぬと語つてゐる。

ユネスコからの便り

拜啓

あなた方が率先して日本で始めてユネスコ協力會を設立されたことを知つて、大變嬉しく存じます。私共はユネスコとその活動について、日本の新聞方面がどんな反響を示しているか興味をもつて見て居ります。

つきましては今後ユネスコの活動に關して日本の新聞に掲載せられた記事でしたら何でも結構ですから欲しいのですが、貴國に新聞切抜機關の様なものがあつたら御知らせ願ひたい。もし無かつたらこの仕事を引受けて頂き度い。尙日本に於ける主要紙の名稱住所も併せて御一報下さい。

敬具

一九四七年十二月五日

ユネスコ・ハウス・アジア部長

拜啓

去る七月二十日付けの貴信並に十一月二十七日付けの當方返信に關し去る十一月より十二月に亘りメキシコ市開催の第二回會合に於けるユネスコ總會の決議に鑑み、ユネスコ總長は、日本にユネスコの目的と活動を了解させる最上の方法を探究するために、近く日本の聯合軍當局に對し交渉を開始するだらうといふことをお知らせします。

此の交渉がなされ、決定が下されないうちは、ユネスコ協會が正式にユネスコによつて承認されないことを遺憾に思ひますが、しかし、私は貴協力會員にユネスコの活動がよくわかる様、ユネスコの各種刊行物を貴協力會に送るよう指令致しました。

一九四八年一月十三日

海外部長 アンドレ・デブローネ